

2025年8月20日 慶應義塾大学三田キャンパス

先生のための「夏休み経済教室」東京会場 シンポジウム「VUCA 時代における経済の教え方」

※ 2024 年 11 月 30 日 日本社会科教育学会 第 74 回全国研究大会 琉球大学

自由研究発表Ⅰ 第2分科会（2） 9：00～12:00 で発表した資料

地方における金融の在り方の追求を目指す社会科授業 —地域金融機関とフィンテックに着目して—

要 旨

本研究では、中学校社会科における金融教育および金融経済教育の課題を明らかにし、その解決に向けた学習内容と指導計画を提案することを目的とする。特に、「市民としての自覚的な行動を促す学習」が十分に展開されていない現状を課題として捉えた。この課題解決の鍵として「地域金融機関」と「フィンテック」に注目し、具体的な学習内容と指導計画を開発した。開発した授業実践を通して、その成果と課題を明らかにした。

勤務先：新潟県糸魚川市立糸魚川中学校

氏 名：仙田 健一

地方における金融の在り方の追求を目指す社会科授業 —地域金融機関とフィンテックに着目して—

仙田 健一

1 研究の目的

2024 年 8 月、国民それぞれのニーズに応えた金融経済教育の機会を官民一体で全国的に拡充することを目的として、J-FLEC(金融経済教育推進機構)が設立された¹。金融庁・金融経済教育懇談会では、金融経済教育の目的を「国民一人一人に、金融やその背景となる経済についての基礎知識と、日々の生活の中でこうした基礎知識に立脚しつつ自立した個人として判断し意思決定する能力、すなわち金融リテラシーを身につけてもらい、また、必要に応じてその知識を充実する機会を提供すること」と定義している。これに対して、山根栄次は「個人金融資産の形成、借金とその返済などのことについて、生徒が、現在及び将来、個人として自主的・合理的に選択・意思決定することができるようにすることが学校における金融教育の目標²」と述べている。このように、金融経済教育とは、個々の金融リテラシーの向上だけでなく、経済システム全体における金融の役割を理解するという社会的な視点を含むものと考えられる。

これらを踏まえ、本研究では、「金融教育」だけでなく「金融経済教育」を対象とする。一方で、中学校社会科における金融経済教育は、「金融の仕組みを理解する」学習は行われているものの、多様な実践研究は、十分に展開されていない現状がある。

そこで、本研究では、中学校社会科における金融教育及び金融経済教育の課題を明らかにし、その解決に向けた学習内容と指導計画を提案することを目的とする。

2 金融経済教育における課題

(1)「学校は金儲けを教える場ではない」という認識の存在

金融広報中央委員会は、2007 年を「金融教育元年」と位置付け、『金融教育プログラム』『はじめての金融教育』『金融教育ガイドブック』など、様々な教材や実践事例集を作成してきた³。また、日本証券業協会は『金融経済教育の課題と展開』を発行し、日本及び海外の金融経済教育の現状や実態を通して、金融経済教育の必要性を訴えている⁴。一方、大澤克美は、日本において『学校はお金儲けを教える場ではない』という意識が強く、金融は金儲けという誤解から、パーソナルファイナンスに関する学習を避ける学校文化があった⁵と指摘している。このような理由から金融教育及び金融経済教育においては、様々な実践が行われづらい状況があったと考えられる。

しかし、この認識に基づいて学校で金銭に関する学習を一切排除するならば、小学校の多くで実施されている米を販売する活動やバザーといった体験的活動も否定されることになる。また、企業は利益を追求する主体であることを前提とすれば、企業に関する学習全般の正当性も失われてしまう。

このような現状から、どのような実践が求められているかを以下の視点から検討していきたい。

(2) 市民として自覚的な行動を促す学習は展開されていないこと

東京学芸大学とみずほフィナンシャルグループが発行した『実践から考える金融教育の現在と未来⁶』では、大学と金融機関の共同研究として、金融教育の実践事例が示されている。この研究では、社会科だけでなく、家庭科やキャリア教育、特別支援教育における金融教育の必要性と具体例が挙げられている。金融システムを捉えるために一般化し、広く活用できるように展開されている。しかし、これらの実践は、金融に関する知識の伝達に留まっており、金融機関ごとの特徴や差異を認識する視点が欠けているのではないかと考えられる。これに対

して、田本正一は、金融教育の目的を「金融の仕組みを理解すること」と「よりよい社会を形成したりすることができるようにすること」と説明しているが、後者の「市民として自覚的に行動する学習」は十分に展開されていないことを指摘している⁷。

これに対して、『中学校学習指導要領（平成 29 年告示）』では、「B 私たちと経済 （1）市場の働きと経済」の中で「対立と合意、効率と公正、分業と交換、希少性などに着目して、課題を追究したり解決したりする活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する」とある。

(ウ) 現代の生産や金融などの仕組みや働きを理解すること。

(ア) 個人や企業の経済活動における役割と責任について多面的・多角的に考察し、表現すること。

この内容について、『中学校学習指導要領解説 社会編』では、「金融の仕組みや働きについては、家計の貯蓄などが企業の生産活動や社会に必要な様々な形態の企業のための資金、人々の生活の資金などとして円滑に循環するために、金融機関が仲介する間接金融と、株式や債券などを発行して直接資金を集める直接金融を扱い、金融の仕組みや働きを理解できるようにすることを意味している」と説明されている。

このように『中学校学習指導要領（平成 29 年告示）』では、「金融の仕組みを理解すること」に重点が置かれているものの、「よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする」という社会科の目標を直接的に担う記述は見受けられない。社会科の内容としての扱いに留まらず、社会科の目標そのものに正対する必要があると考えられる。

そこで、以下のような中学校社会科における金融経済教育の教育内容と指導計画を提案したい。

3 中学校社会科における金融経済教育の教育内容開発

2 で指摘した課題を解決するためには、よりよい社会の形成に向けて、生徒が自覚的に行動する力を養う教育内容が必要である。そのためには、まず「よりよい社会」とは、どのような社会なのかを具体的に考察し、その実現に向けて経済の循環を活性化させる方法を主体的に考えることが重要である。また、金融が本来担っていた相互扶助の理念や仕組みを捉え、「相互扶助」という概念的知識を習得し、自分自身が社会で果たすべき役割について認識することが求められる。

上記のような金融が関わる「よりよい社会」とはどのような社会なのかを考察する視点と「相互扶助」という概念的知識の習得の視点から地域金融機関とフィンテックに関する教育内容が適していると考えた。その理由は以下の通りである。

(1) 地域金融機関について

地域金融機関とは、地方銀行、第二地方銀行、信用金庫、信用組合等が該当する。右の図で表すことができる。

金融機関種別	概要及び生徒の調査先	地域
都市銀行 ネットバンク	地域を限定されない 営利 ※地域金融機関ではない	広 ↑ ↓ 狭
地方銀行	第四北越銀行 営利 新潟県内	
第二地方銀行	大光銀行 営利 主に中小企業向け	
信用金庫	上越信用金庫 非営利 上越地域内	
信用組合	新潟県信用組合 非営利 組合員のみ	

これらは、地理的な地域を営業範囲とし、地域の住民や中小企業を主な顧客としている。しかし、フィンテックの普及により地理的なエリアという概念が消え、インターネット上の顧客との接点が拡大している⁸。一方、地域金融機関は、地域の中小企業を支え、長期継続的なリレーションシップを構築し、地域経済を担ってきた。資金の預け先としても、資金の供給者としても、地域金融の最大の担い手は、依然として地域金融機関であり、重要な役割を担っている。

地域金融機関をテーマとすることで、生徒は、地域のつながりを認識し、地域経済の構造を把握し、地域への効果的な働き掛けを考える力を養うことができる。例えば、「ローカル・インベストメント」という考え方を通じて、「地域住民による地元企業への投資によって、地域の暮らしを豊かにする」ことを学ぶことができるからである⁹。これは、「地産地消」に通じる考え方であり、地域金融機関に預金することによって、「地域」に貢献している企業に資金が循環する仕組みの一助になるというものである。

そして、地域社会が「よりよい社会」になるために地域金融機関は、どのような役割を果たすべきなのかを考えることが重要である。内田聡は「地域金融機関は、地域社会において、価値（観）を生み出す『主体』となる場合、存在意義がある¹⁰と述べている。小倉義明は、地域金融を含めた社会の在り方について、「地域経済の生産性を向上させながら、上手に縮むための地域金融の構造調整の方向性¹¹」を探る必要性があると述べている。つまり、地域金融機関は、地域経済の生産性を向上させるとともに地域社会の価値を創出しなければならないのである。

このように地域金融機関を学習内容として扱うことは、地域活性化や地方創生を考えるための有効な手立てとなると考えられる。

（２）フィンテックの視点を取り入れた地域金融の構想

地域金融に大きな影響を与えているのが、フィンテック（Finance と Technology を組み合わせた造語）である。フィンテックの活用は、地方創生においても注目されている。それは「フィンテックの機能面に着目し、地域自らがステークホルダーの理解・承諾を得ながらデータ活用が実現できた地域は、より一層富める地域として発展していく可能性を高める¹²」からである。一方、都市銀行やネットバンキングと比較すると、地域金融機関は、オンライン決済などの個人向けのフィンテックといった比較的広く広がっている技術も有効に活用できていない現状がある。

そこで、本研究では、実践校の生徒が、過去¹³にクラウドファンディングを活用して地域の魅力を発信した経験を基にフィンテックを用いた地域金融の取組を構想する。具体的には、地域の商店街（高田本町商店街）における地域金融機関の役割をフィンテックの視点から考察する活動を位置付ける。

（３）地域金融機関と都市銀行や証券取引所の役割に関する調査活動

都市銀行と比べて、地域金融機関を取り上げることで、実際に金融機関の職員と関わることができ、施設見学等も設定しやすい。そのような地域金融機関の調査を通じて、地域経済や地域の企業に対する金融の役割を理解できる。また、地域と自分自身とのつながりを考えるきっかけとなる。さらに、東京都日本橋の金融街でフィールドワークを行い、貨幣博物館や東京証券取引所へ訪問し、都市と地方の金融機関の役割や構造を関連付ける活動を位置付ける。

上記のような地方（上越市）と中央（東京都日本橋）での聞き取り調査や見学を通じて、日本全体の金融システムを背景に地域金融の在り方を深く考察することができると考えられる。

4 授業分析の視点

上記の研究の目的に迫る手立てから「地域経済と地域金融は不可分な関係にあるか（表１）」「地方において金融を巡る新しい社会システムを考えていかなければいけないか（表２）」に関する実践前後の生徒のアンケートとレポートの記述を対象とし、その変容を分析する。実践校の生徒へのアンケートは以下の通りである（2024年6月14日実施、n=67）。

表１ 地域経済にとって、地域金融は必要だと感じるか				表２ 地方において新しい金融の在り方を考えてく必要があると感じるか			
A とても感じる	B 感じる	C あまり感じない	D 全く感じない	A とても感じる	B 感じる	C あまり感じない	D 全く感じない
22% (15)	67% (45)	9% (6)	2% (1)	19% (13)	67% (45)	12% (8)	2% (1)
表中の数値は左側がパーセント、（ ）が人数。				表中の数値は左側がパーセント、（ ）が人数。			

表３ 地域経済にとって、地域金融は必要だと感じるか（自由記述の内容の要約）	表４ 地方において新しい金融の在り方を考えてく必要があると感じるか（自由記述の内容の要約）
・理解度の差：地域金融の役割や重要性を理解している生徒もいれば、「よくわからない」「イメージできない」といった意見も多く、知識や意識の格差が大きい。 ・具体性の不足：「経済を回すために必要」と感じる一方で、	・知識不足：「金融について知らない」「現状の課題がよくわからない」という声があり、金融に関する教育や情報共有の必要性が示唆される。 ・変化の必要性：「時代に合わせた変化が必要」「新しい視点を

具体的なメカニズムや実例が理解されていないため、重要性が曖昧なままの生徒がいる。 ・現状の効果が見えにくい：「地域内でお金を回す良さを感じたことがない」「あるからこそそのメリットが分からない」との意見が示すように、地域金融の成果や影響が可視化されていない。 ・知識不足：「地域金融が分からない」「説明できない」という意見が多く、金融リテラシーの向上が課題。	取り入れるべき」という意見が多く、現状維持では不十分との認識がある。 ・現状で満足：「今のままで十分」「困ったことがない」といった意見もあり、新しい金融の必要性が全員に共有されているわけではない。 ・具体性の欠如：「あまり考えたことがない」「わからない」という意見は、金融の課題や新しいアイデアについての理解を深める必要性を示している。
--	--

しかし、アンケートの記述を見ると、多くの生徒が「地域金融を詳しく知らないので感覚で回答した」や「地域金融機関は必要な気がするが理由は分からない」といった意見を挙げている。つまり、「なぜ、地域金融が必要なのか」「なぜ、新しい金融の在り方を考える必要があるか」という本質的な問いやその背景や意義について迫ることができていない現状が見られる。

5 単元の授業計画

(1) 単元の学習目標

- ・新しい金融を中心として、現代の生産や金融などの仕組みや働きを理解できる（知識・技能）。
- ・個人やフィンテックを含む企業の経済活動における役割と責任について多面的・多角的に考察し、表現している（思考・判断・表現）。
- ・よりよい社会の実現を視野に新しい金融を含む経済活動を生かして地域の課題を主体的に追究、解決しようとしている（主体的に学習に取り組む態度）。

(2) 単元の教授・学習過程

① 1時間目 人生に必要なものと金融経済教育の関わりを学ぶ

時	教師の主な指示や発問	教授・学習活動	子どもに習得させたい知識
導入	・これからの人生で必要なものは何か。	T：発問する。 P：予想する。	・人生で重要な要素と金融はつながりがある。
展開①	・10年前に購入していた場合、価値が上がったものはどれか。	T：株式やカードゲームの例を提示する。 P：予想する。	・貨幣や物の価値は絶対的でなく、変動する。
展開②	・借金をしない人生は可能か。	T：例を提示する。 P：答える。	・携帯電話の分割払いや住宅ローンという金融商品。
終結	・日本政府が推進している金融経済教育についての動画を見てみよう。	T：動画を提示する。 P：視聴する。 P：振り返る。	・金融経済教育の重要性。 ・金融経済教育に対する政府の取組。

② 2時間目 地域金融機関の種類と役割を理解する

時	教師の主な指示や発問	教授・学習活動	子どもに習得させたい知識
導入	・デジタル地図を使って、高田本町商店街にある金融機関を調べよう。	T：発問する。 P：調べる。	・「八十二銀行」「新潟県信用組合」「上越信用金庫」「第四北越銀行」の位置。
展開	・地域金融機関の特徴や役割を整理しよう。	T：発問する。 P：調べる。	・地域金融機関の定義と役割の違い。
終結	・上越市内の金融機関を調査する計画を立てよう。	T：説明する P：計画を立てる。	・調査計画の立て方。

③ 3～5時間目 金融機関への調査と地域金融の意義を学ぶ

時	教師の主な指示や発問	教授・学習活動	子どもに習得させたい知識
---	------------	---------	--------------

	・上越市内の金融機関を調査しよう。	P：各金融機関で聞き取り調査を実施する。 P：業務の体験や施設見学を行う。	・金融機関の具体的な役割や業務内容。 ・地域社会への影響。
--	-------------------	--	----------------------------------

④ 6時間目 各金融機関の違いや共通点の理解と夏休み課題の確認

時	教師の主な指示や発問	教授・学習活動	子どもに習得させたい知識
導入	・各金融機関の調査結果を共有しよう。	T：説明する。 P：調査内容を共有する。	・各金融機関（都市銀行、地方銀行、信用金庫、日本銀行）の特徴や役割の違い。
展開	・各金融機関の違いや共通点を整理しよう。	P：調査内容を整理する。	・各金融機関（都市銀行、地方銀行、信用金庫、日本銀行）の共通点。
終結	・地域金融に関するレポートとお金の作文を作成しよう。	T：説明する。	・地域金融に関するレポートの書き方。 ・お金の作文の書き方。

⑤ 7時間目 投資と融資の仕組みを学ぶ

時	教師の主な指示や発問	教授・学習活動	子どもに習得させたい知識
導入	・投資ブームの動画を見て、投資の基本的な仕組みを学ぼう。	T：動画を提示する。 T：説明する。	・投資とは何か。 ・株式市場の基本的な役割。
展開	・投資シミュレーションを体験しよう。 ・融資シミュレーションを体験しよう。 ・日本銀行にお金を預けることはできるのか。	P：投資シミュレーションを行う。 P：融資シミュレーションを行う。 T：発問する。 P：答える。	・投資の仕組み。 ・融資の仕組み。 ・日本銀行の役割を理解する。
終結	・投資や融資を通じて学んだことを振り返ろう。	P：まとめる。	・投資と融資の違い。 ・「信用」の重要性。

⑥ 8時間目と金融研修 中央金融機関と地方金融機関の比較

時	教師の主な指示や発問	教授・学習活動	子どもに習得させたい知識
8時間目	・東京都日本橋での金融研修の目的を確認し、調査計画を立てよう。	T：説明する。 P：計画を立てる。	・日本銀行や東京証券取引所の役割。
研修	・東京都日本橋での金融研修を実施しよう。	P：調査する。	・中央金融機関と地方金融機関の違い。

⑦ 9時間目 銀行の合併と地域金融の役割を考える

時	教師の主な指示や発問	教授・学習活動	子どもに習得させたい知識
導入	・なぜ、第四北越銀行という名称なのか。	T：発問する。 P：答える。	・銀行の合併（第四銀行と北越銀行）の背景。 ・銀行の合併が経営基盤の強化や人口減少などの課題に関連している。
展開	・地域金融機関の役割を強めるべきか、現状維持すべきか。	T：発問する。 P：議論する。	・地域金融機関の重要性。 ・クラウドファンディングや都市銀行との違い。
終結	・地域金融機関はこれからどうあるべきか。	T：発問する。 P：まとめる。	・地域金融機関の特色と役割。 ・地域金融機関の未来への展望。

⑧ 10時間目 都市銀行と地域金融機関の比較

時	教師の主な指示や発問	教授・学習活動	子どもに習得させたい知識
---	------------	---------	--------------

導入	・地域金融機関がすべきことは何か。	T：発問する。 P：予想する。	・都市銀行、地方銀行、信用金庫の特徴や役割の違い。
展開	・都市銀行、地方銀行、信用金庫は何が違うのか。	P：調べる。 P：発表する。	・都市銀行、地方銀行、信用金庫の特徴や違い。
終結	・他の地域金融機関は、どのような取組をしているのか。	P：調べる。	・他の地域金融機関の取組。

⑨ 11～12 時間目 地域金融機関と新しい金融技術の活用

時	教師の主な指示や発問	教授・学習活動	子どもに習得させたい知識
導入	・地域金融機関が高田本町商店街の課題を解決するためには何をすべきか。	T：発問する。 P：予想する。	・地域社会と金融のつながり。 ・課題解決のための発想力。
展開	・フィンテックを活用した解決策の具体例を調べよう。	P：調べる。 P：発表する。	・フィンテックの具体的な活用方法。 ・地域経済への影響。
終結	・他のグループの意見を参考に、グループの考えを改善しよう。	P：まとめる。	・他者の視点。 ・自分たちのアイデアを洗練する力。

⑩ 13 時間目 地域金融機関の未来像を考える

時	教師の主な指示や発問	教授・学習活動	子どもに習得させたい知識
導入	・ビル・ゲイツの「Banking is necessary, banks are not」という言葉の意味は何か。	T：発問する。 P：答える。	・金融業界の未来像。 ・地域金融機関の可能性。
展開	・地域金融機関がこれから重視すべき役割は何か。	T：発問する。 P：4 象限マトリックスを活用し、地域金融機関の業務内容の優先順位を予想する。	・地域金融機関の業務内容。 ・地域金融機関の業務の内容の重要性。
終結	・地域金融機関が持つ未来像をまとめよう。	P：まとめる。	・地域金融機関の未来を自分の言葉で表現する力。

11 14 時間目 学習の振り返りと地域社会における金融の可能性をまとめる

時	教師の主な指示や発問	教授・学習活動	子どもに習得させたい知識
	・地域金融の可能性を具体的な事例を用いてレポートにまとめよう。	T：発問する。 P：まとめる。	・地域金融の意義と未来像についての考察力。

6 学びの実際（全 14 時間） ※ 社会科と総合的な学習の時間の活用

1 時間目は、これからの人生で必要なものについて確認した。「友達」「家族」「お金」などの意見が出した。次に、10 年前に購入していた場合に価値が上がったものを株式やカードゲームの中から選び、株式や物の価値が絶対的なものではないことを確認した。また、「将来、借金をしない人はいるか」という問いに対し、携帯電話の分割払いも借金（ローン）であり、住宅の購入も多くの場合はローンを組んでいることを学んだ。最後に、日本政府が金融経済教育を推進しているという内容の動画を視聴した。

2 時間目は、デジタル地図を使って、高田本町商店街にはどのような金融機関があるのかを調査し、「八十二銀行」「新潟県信用組合」「上越信用金庫」「第四北越銀行」があることを確認した。そのうち、地域の枠組みがある地方銀行、第二地方銀行、信用金庫、信用組合が地域金融機関であり、営利と非営利、規模の違いがあることを

捉えた。金融機関は、お金を融通する機関であり、融資を通じて利益を得る仕組みがあることを学び、地域金融機関、都市銀行や証券会社、保険会社、農業協同組合などの多くの種類があることを把握した。

次に、上越市内にある金融機関を調査する計画を作成した。調査先として、上越市内にある地方銀行、第二地方銀行、信用金庫、信用組合、郵便局、保険会社、証券会社、政府系金融機関をそれぞれ選択した。質問事項や事前情報を整理した上で、各金融機関とのアポイントメントを取り、日程調整を行った。その際に、以下のような質問事項を考え、共有した。

- ・地域金融機関が存在する意義は何か。 ・高田本町商店街（地域）の課題は何か。 ・融資の基準は何か。
- ・どのような企業に融資を行っているのか。 ・地域金融機関は地域経済にどのように貢献しているか。
- ・地域活性化のための取組は何か。 ・他の金融機関との共通点や相違点は何か。 ・地域のデジタル化との関連はあるのか。
- ・人口減少によって生じる課題は何か。 ・利用者はどのくらいか。 など

3から5時間目は、グループに分かれ、上越市内にある金融機関に出掛け、聞き取り調査を実施した。その際に、金庫の中を見学したり、実際の業務を体験したりする機会を得た。信用金庫で、ある生徒は「地域金融機関はお金の地産地消を促進する」という話を聞き、共感する姿があった。

6時間目は、調査内容を共有し、各金融機関の違いや共通点について理解を深めた。その内容を生かし、夏休みの課題として、地域金融に関するレポートを作成すること、お金の作文を実施することを確認した。ある生徒は、レポートの中でまとめとして、以下のような内容を記述した。

- ・実際に銀行に行ってみると ATM は生産年齢層の人が使っていて、窓口は高齢者が多いように感じた。新しいシステムなどが高齢者に行き届いておらず、デジタル化においていかれている高齢者は多い。銀行員の方から話で地域金融と高田本町商店街の課題は少子高齢化が関わっており、地域コミュニティが減少していることが課題であることがわかった。そして、資産運用についての話を聞き、若いときに金融に関する教育を受けることは大切であると感じた。
- ・現在、高田本町商店街（上越市）はどちらかというと地域に関する課題が多い。それを改善するために私たちが魅力を伝えるしかないと思った。信用金庫の方が「これからどのような地域になっていくかは、今、住んでいる人がどれだけ将来のことを想像して、それを目指しているかに関わっている」と言っていたことに共感した。地域経済の発展のために自分たちがやらなければいけないという当事者意識をもった動きが出てくるとより一層、地域が発展すると思った。

7時間目は、投資ブームについての動画を視聴し、投資シミュレーションを体験した。1000万円の資金を基に架空の企業の株式の変動を予想し、株式の購入を選択した。評価が高い企業に資金が回ること、株式の発行が企業の運営資金となることを確認した。これに対して、投機的な取引を重視すると株式市場がうまく機能しないことを捉えた。

次に融資シミュレーションを体験した。銀行員として、どこに融資するか、利率をどのくらいにするかを考え、「信用」に基づく判断の重要性を感じた。

そして、都市銀行、信用金庫、日本銀行のどの金融機関にお金を預けるか、どの金融機関からお金を借りるかを考えた。日本銀行が日本の一つしかない銀行でお金を預かることや個人との取引をしていないことを確認した。このように日本銀行は日本の中央銀行であり、発券銀行、銀行の銀行、政府の銀行といった役割があり、日本経済の安定化を担っていることを学んだ。

8時間目は、中央の金融機関と地方の金融機関の意義や役割を比較するという東京都日本橋へ金融研修の目的を確認し、調査計画を作成した。

東京都日本橋での金融研修では、日本銀行の機能やお金の役割を貨幣博物館で調査し、東京証券取引所で証券取引の歴史と役割を聞き取った。また、フィールドワークを通して、日本橋に地方銀行の支店や証券会社が数多くあり、都市銀行が立地している状況を目の当たりにした。ある生徒は以下のような感想を記述している。

- ・東京証券取引所では、日経平均株価の変動というテレビで見たことがある様子を見学し感動した。今まで株価が上がる（下がる）ってどういうことだろうと思っていたことを目で見て理解することができた。（中略）東京証券取引所でのガイドの方が言っていたように、投資など若いうちにたくさん学び、さまざまな知識を身につけるべきだと感じた。学んだことを将来、生かせるように考えていきたい。
- ・東京証券取引所では、一つ一つ丁寧にガイドしてくれた。そのおかげで株式取引への関心を高めることができた。（中略）貨幣博物館では、日本銀行の歴史や役割も知れた。（中略）フィールドワークでは、都市銀行にふれて、地方銀行との違いも感

じることができた。

9 時間目は、「第四北越銀行」という名称から、第四銀行と北越銀行が 2021 年に合併したことを確認した。銀行の合併は都市銀行、地方銀行に関わらず起きていることを捉えた。インターネットを活用し、銀行の合併が経営基盤の強化や人口減少、企業の減少に関わっていることを調べた。そして、上記のような現状や都市銀行やネットバンキング、クラウドファンディングがある中で地域金融は役割を強めるべきか、現状維持でよいのかを考え、以下のような議論を行った。

【強めるべき】地域金融機関の役割を強めないと現在ある役割を果たすことができない。都市銀行と同じようになってしまっているのではないかと。そのようになってしまうと地域の活性化のために地方のことを考えている地域金融機関の特色がなくなる。都市銀行は首都圏や経営的に見込みがあるところにしか融資しないのではないかと。

【現状維持】地元の中小企業にとって、その地域のことをよく知る身近な地方銀行が必要だ。都市銀行に統合させるのではなく、残した方がよい。クラウドファンディングもどれだけのお金が得られるかわからない。しかし、これ以上、規模を広げても将来、働き手が減ったりして、今よりも経済が回りづらくなることも考えられる。今のままか統合させる方がよいと思った。

10 時間目は、地域金融機関がすべきことは何かを考えた。その際に、都市銀行、地方銀行、信用金庫を①目的、②営利、③規模、④人口減少の影響、⑤デジタル化の導入の視点で違いを表にまとめた。地域の人の借りやすさや都市銀行と信用金庫の目的の違いを捉えた。他の金融機関はどのようなことをしているのかを調べた。その中で朝日信用金庫、塩沢信用組合、飛騨信用組合、八十二銀行の事例を取り上げた。朝日信用金庫は、地域資源を発掘・活用する取組、塩沢信用組合は、次世代の担い手に投資する取組、飛騨信用組合は域内の経済循環を促進する取組、八十二銀行は、持続可能な観光基盤をつくる取組を調べた。

11 から 12 時間目は、1・2 年生の学習で取り上げた高田本町商店街の課題を地域金融機関は、新しい金融を活用して、どのように解決を目指すことができるのかを考えた。その際に、地域金融機関は何をするのか、どうやって収益をあげるのか、将来の成長可能性と成長可能性をどのように評価するのか、利害関係者はどのような人なのかを含めて構想することとした。新しい金融テクノロジーであるフィンテックとして、キャッシュレス決済、会計・財務サービス、フィンテック融資、仮想通貨、クラウドファンディング、投資・資産運用・ロボアドバイザー、家計簿アプリから、どのような組み合わせが選択できるのかについて、グループで意見交換した。地域金融機関でフィンテックを活用した事例を調べ、どのように高田本町商店街に取り入れるのかを考察した。例えば、あるグループは、地域通貨アプリを導入した飛騨信用組合の事例を紹介し、域内の経済循環を促進することを説明した。また、クラウドファンディングで資金を集めた経験から資金を集めるだけでなく、広告の効果も合わせもつことを想起した。

13 時間目は、マイクロソフトの創業者であるビルゲイツ氏が 1994 年に発言した「Banking is necessary, banks are not（銀行機能は必要だが、今ある銀行は必要なくなる）」という発言の意味を考えた。次に上越市でも現状維持できる・現状維持が難しい、優先度が高い・低いという 4 象限マトリックスに、以下のような業務内容に関する地域金融カードを当てはめていった。

- | | | | |
|--------------------|-------------|---------------|---------|
| ①融資業務/預金業務 | ②支払い/為替業務 | ③投資信託や保険商品の販売 | ④地域貢献活動 |
| ⑤リレーションシップバンキングの充実 | ⑥個人資産管理サービス | ⑦キャッシュレス決済の普及 | |
| ⑧クラウドファンディングの活用 | | | |

そして、以下のような仲間が考えた新しい金融を活用した取組は地域金融機関がすべきことなのかをグループで考えた。

「高田本町商店街に道の駅を作る」

- | | |
|--|--------------------------------------|
| ①対象とする高田本町商店街の課題（高齢者の比率が高い） | |
| ②何をするか（高齢者が集まりやすく、働きやすい場を作る。特産品が集まり、購入できる） | |
| ③利益（上越の特産品の売上） | ④資金（高田本町に暮らす高齢者に向けてクラウドファンディングを実施する） |

グループの中で「クラウドファンディングは、私たちでもできたのだから地域金融機関でなくてもできる」「高

齢者だけがターゲットになっていて、若者が集まりづらいという高田本町商店街の課題に答えていない」「地域金融機関は融資したり、サポートしたりするという方法が地域の企業の成長につながるのではないか」といった意見を交換した。それを基に地域金融機関がこれから重視すべき役割は何かを考えた。

まとめとして、自分自身が考えた地域金融機関の取組を振り返り、以下のように記述した。

- ・ 私たちのアイデアは「タンス預金をどう使っていくか」という視点に縛られていた。そのため地域金融機関と高齢者で利害関係が完結していた。しかし、地域活性化を図るためには全世代が利害関係の輪に参加する必要がある。(中略) 他のグループの視点で「本町に道の駅を置いても」という意見があった。しかし、駅と観光地である高田城址公園の間にあるというのは地理的には優れている。また、「クラウドファンディングを地域金融機関が行う必要はあるか」という意見は、確かにクラウドファンディングは一般の企業が十分に運営できる。しかし、地域金融機関が行う選択肢も考えてよいと思った。(中略) 先のことを予想して金融について考えるのはとても難しかったが、様々な意見を聞き、想像できて、とても興味深かった。
- ・ 地域金融機関の強みは、地域の人に寄り添った活動ではないかと考えた。高田本町商店街の課題として目新しいものがないこと、キャッシュレスが進んでいるのに高齢者が追いつけていないところ、シャッター街になってしまっているところだと感じた。しかし、キャッシュレスがなくても、たくさん人を呼び込むことができて地域はある。(中略) これらの課題を解決するために、まずは企業を作りやすくするのがよいと思った。具体的には、地域金融機関が創業時のサポートを行い、より良いものにしていくということを考えた。明確になっていないところもたくさんあるのでこれからの学習でも考えていきたい。

14 時間目は、これまでの学習を振り返り、地域社会における金融の可能性をレポートにまとめた。

7 研究の成果と課題

(1) 研究の成果

「よりよい社会」の形成において、個人と地域社会が互いに支え合う「相互扶助」の概念が重要である。この視点を基に、本単元では地域経済における地域金融機関の役割を学び、生徒たちが主体的に考え行動する力を育むことを目指した。その成果を示すものとして、単元後のアンケート（n=59、実施日 2024 年 10 月 21 日）の結果から、特に「地域経済と地域金融の不可分性」（表 3）や「地方における新しい金融のあり方の必要性」（表 4）に対する認識が大きく向上したことが分かる。

表 5 地域経済にとって、地域金融は必要だと感じるか

	とても感じる	感じる	あまり感じない	全く感じない
前	22% (15)	67% (45)	9% (6)	2% (1)
後	73% (43)	25% (15)	2% (1)	0% (0)

表中の数値は左側がパーセント、() が人数。

表 6 地方において新しい金融の在り方を考えてく必要があると感じるか

	とても感じる	感じる	あまり感じない	全く感じない
前	19% (13)	67% (45)	12% (8)	2% (1)
後	49% (29)	46% (27)	3% (2)	2% (1)

表中の数値は左側がパーセント、() が人数。

具体的には、「地域経済にとって地域金融は必要だと感じるか」（表 5）では、「とても感じる」と回答した割合が 22%（15 名）から 73%（43 名）に増加し、「地方における新しい金融の在り方を考える必要があるか」（表 6）でも、「とても感じる」が 19%（13 名）から 49%（29 名）に増えた。この変化は、生徒が「相互扶助」という視点を踏まえ、地域金融の重要性や具体的な役割について深く理解した結果といえる。

そして、以下はアンケートの自由記述の変化に関する要約である。

表 7 地域経済にとって、地域金融は必要だと感じるか（自由記述の変化に関する要約）

表 8 地方において新しい金融の在り方を考えてく必要があると感じるか（自由記述の変化に関する要約）

・ 地域課題への対応：「地域金融が地域課題を解決するカギ」「地域の特色や課題を知る機関」として認識されている。 ・ 中小企業の支援：「中小企業に対する融資」「事業の支援」「企業成長をサポート」といった具体的な役割が挙げられている。 ・ 地域密着型の活動：「地域に密着して課題を解決」「地域特有のノウハウを持つ」「利用者と信頼関係を築く」といった特徴が強調されている。 ・ 地域経済の基盤としての重要性：「地域金融がないと地域経済が回らない」「地域でお金を循環させる」「地域の企業や事	・ 地域経済・金融が衰退しているという認識が強まった。少子高齢化・人口減少：後継者不足や労働人口減少の影響で、地域の経済活動が縮小。 ・ 地方銀行の衰退：現状維持では需要が減少し、金融機関自体が存続危機に直面。 ・ 都市への人口流出により、地域内での経済循環が難しくなっている。 ・ 地域経済を活性化させるためには、現状維持ではなく変化が必要。 ・ デジタル化の推進：ICT やネットバンキング、キャッシュレ
--	--

業者を支える」。 ・メガバンクとの差異：「メガバンクでは対応できない細やかな支援ができる」との指摘が多い。 ・地域活性化への貢献：「地域イベントの開催支援」「地域経済を活性化させる役割」など、地域発展に欠かせない存在と認識されている。 ・衰退の懸念：「地域金融が衰退している」「デジタル化への対応や高齢者支援が課題」といった指摘がある。 ・新しい役割の模索：「これからの地域金融がどうなるかは分からないが、変化が必要」「独自の役割をさらに発展させるべき」との意見。 ・信頼関係の構築：「長年の経験で信頼を積み上げている」「地域住民に親身に寄り添う」といった強みが挙げられている。 ・地域特化の支援：「地域の良い点や課題点を知っている」「地域の特色を活かした提案が可能」との特徴が強調されている。 ・学びからの変化：「学習を通して地域金融の必要性を実感」「調査を通じて具体的な役割を理解」したとの声が多い。 ・意識の向上：「地域金融が地域にとって不可欠」「地域経済を支える柱」として認識が深まっている。	ス対応が課題解決の鍵とされる。 ・地域特化型の新しい金融モデル：各地域の特性に合った金融のあり方が求められていると捉えている。 ・利便性向上：新しい金融を導入することで、利用者や企業にとってのメリットが増える。 ・若者の取り込み：若年層が利用しやすいサービス（ネットバンキングやキャッシュレス）の充実。 ・課題解決の手段：地方特有の問題（少子高齢化や人口減少）を克服するためのツールとして金融を活用。 ・「今のままで良い」という意見もあるが、それは具体的な課題認識や変化の必要性を感じていない場合が多い。 ・新しい金融を取り入れることが失敗につながるリスクもあるが、挑戦することで大きな発展の可能性もある。 ・成功事例が次の取り組みにつながり、持続可能な発展に寄与することを捉えている。
--	--

自由記述の内容（表7、表8）からも、「相互扶助」を基盤とした考察が見られる。例えば、地域課題への対応において「地域金融が地域課題を解決するカギ」とする意見や、中小企業の支援に関する具体的な役割への理解が示されている。また、「地域金融がないと地域経済が回らない」「地域でお金を循環させる」といった地域経済の基盤としての重要性を強調する自由記述が増えた。これらは、金融が地域社会のつながりを支える「架け橋」として機能していることへの認識を深めた結果である。

このような認識の変容となった生徒はどのような考えをもっているのだろうか。以下は単元末（14時間目）に生徒がまとめたレポートである（写真1から4）。

地域銀行などの地域金融機関は地域活性化にとってとても重要な役割を担っていると気が付きました。そこで、より上越の活性化のためには上越の金融機関の役割を明確にし、その活動を私たちのような若い世代も意識していくことが必要だと感じました。

そこで、今の地域金融機関の現状で2つの問題点や改善点を考えることができました。一つ目はお店と金融機関との繋がりが浅いこと。二つ目は地域金融機関の存在（何をしているのか）が市民に伝わっていないことです。

一つ目の課題をあげた理由は、地域と地域金融が密接に関わっているためです。そこで、お互いのコミュニケーションをもっと取ること。さらにコミュニケーションで得た情報を繋ぎ、お店同士の連携をとりやすくすることがその地域を拠点に活動をしている地域金融機関でしかできない事であり、地域の特色を活かした新事業につながると考えられます。

二つ目の課題をあげた理由は、お金を実際に扱う上越市民が何も知らない状態で、地域でお金を回すことは難しいと考えるからです。そこで、地域金融がもっと全面に出て上越産の商品を扱うお店をピックアップや融資をする事で、ふるさと愛が強い高齢者がお金をそこで使ってくれたり、少しでも地域が良くなるようにと若者も行動をおこしてくれとを考えます。なので、地域金融が包み隠さずなくお金の地域循環を目的とした活動を公表し、どんどん取り組んでいくことが必要だと思います。

私がこの地域金融の授業で学んだことは上越を支えていく立場になった時にとても大切なことだと思います。地域金融が頑張るのではなく、あくまで地域金融が架け橋として活動しやすいように私達市民が少しでも行動を起こしたり、常に上越について興味をもって過ごしていきたいなと思いました。

写真1 生徒Aのレポート

1. 高田本町での取組アイデア

課題	高田本町	解決
・地域金融の役割が不明確 ・店舗の活性化が難しい ・高齢者の利用が難しい	・地域金融の役割が不明確 ・店舗の活性化が難しい ・高齢者の利用が難しい	・地域金融の役割が不明確 ・店舗の活性化が難しい ・高齢者の利用が難しい

【取組：道の駅+空き店舗自習室】

- ・空き店舗を自習室にする
- ・道の駅と同じ系列にする→管理が行き届きやすい
- ・道の駅が近いから、そこでおやつとかを買って自習できる→高田本町にお金を落としてもらえる

【資金】

- ・高田本町のサポーターを募って、資金を提供してもらう
- ・クラウドファンディングをする

【得性】

- ・SNSを駆使して宣伝したり、通信販売を行ったりすることで若者の集客する
- ・高田駅利用者数はまあまあ安定しているため、継続しやすい

【地域金融の必要性】

- ・サポーターと道の駅経営者とを仲介する
- ・道の駅経営者や本町の店を支援する

2. これからの地域金融

- ・地域経済と地域金融は切っても切り離せない存在である。そこで最も回避すべきなのは、地域経済と地域金融が共倒れすることである。そうならないためには、地域経済を回すことと、地域金融が融資を積極的に行うことの両方が大切になってくると考える。
- ・地域金融はこれから資金者が減っていき、経営が厳しくなることが予想される。そこで重要になるのは、経費削減である。経費削減のためには、デジタル化が不可欠だと考える。デジタル化によって、ペーパーフリーが進んだり、必要人員を削減したりすることができると思うからだ。これから高齢者になり高田本町の主な利用者になっていくのは、デジタル化が進んでいる（進んでいく）今の40～50代なので、初期費用はかかったとしてもデジタル化は進めていくべきだと考える。

3. 私は

- ・私は、お小遣いをもっともらってもあまり使わずにタンス貯金をしていくことに気づいた。→経済を回すためには、消費者がお金を使うことが必要だと知ったので、お金を使うようにしてみた。
- ・手軽さや簡単さに流されて、何のためにお金を使うのか、自分の使ったお金は誰のどのようなお金になるのか考えて、お金を使おうと思った。

写真2 生徒Bのレポート

さらに、生徒たちは金融を「相互扶助」の仕組みとして捉え、その理念を行動に結びつける考えを示している。生徒Aは、レポートの中で地域の企業と地域金融機関のコミュニケーションをもっと生かすべきであること、そして地域金融機関の活動の認知度が低いという二つの課題を挙げている。その中でコミュニケーションを活用したビジネスの提案や、地域金融機関自体が積極的にPRを行うべきという方向性を説明している。このように地方創生と地域社会を地域金融がつなぐ取り組みについて考察している。加えて、「地域金融が頑張るのではなく、

あくまで地域金融が架け橋となるように私たち市民が少しでも行動を起こしたり、上越市について興味を持った
りして過ごしたい」と記述している。これは、地域金融に任せるのではなく、自分自身が行動することの重要性
を感じていることを示している。

また、生徒Bは、2年生時に作成した高田本町商店街に関するSWOT分析を生かし、道の駅を運営する際の
地域金融の役割を支援者と経営者を仲介することや、経営者と商店街をつなぐ取組を記述している。このように、
地域金融機関が地域経済の繋ぎ手となる方向性を考えている。加えて、「手軽さや簡単さに流されず、何のために
お金を使うのか、自分自身が使ったお金は誰のどのようなお金になるのかを考えて使いたい」と述べており、経
済の循環の中に自分自身を位置付けていることが窺える。

【 地域社会における金融の可能性 】

現代の地域社会で最も重要視されている課題点は「少子高齢化」です。上越市の人口は、2005年10月時点で
20,883人から、今年2024年10月時点で18,151人と、19年間で2万人以上減少しています。この減少を基に考え、
「人口減少が金融を使う人が減っている」ということから、人口減少に伴い地域社会の経済活動が衰退していると
考えられます。

① 地域金融機関での調査やこれまでの授業で得た知識、意見を踏まえ、今後の地域金融機関の可能性を2つの観
点から考えました。

①金融の可能性

大光銀行では、地域で人口減少が進む中で金融機関を利用してもらうためには「若者が利用しやすい銀行」を
つくるのが大切だと言っていたそうです（地域金融機関での他の組の調査より）。「若者が利用しやすい」と
は、店舗の店でのやり取りを必要としない、つまりインターネット上で手続きを済ませられるということです。確
かにキャッシュレスが進む中で、便利に感じている人は多いと思います。しかし、少子高齢化が進んでいるなら
ば、それとは別に高齢者に親しみやすい「高齢者が利用しやすい銀行」をつくるのが今後の可能性を考えたい
必要だと私は感じます。高齢者にとっては（高齢者と関係のない）自分の貯蓄で使うお金に比べると銀行
と関わりを維持し続けたいという人もいると思うので、上越信用金庫のように「face to face」を大事にする銀
行の力が必要なのではないかと私は考えます。（銀行の将来性について、今後ICTの普及に合わせ、銀行業務を
全てインターネット上で提供するという案を見たことがあるのでそれに対しての意見）

②非金融の可能性

私の銀行では「ちょこっと道の駅」というものを考えました。上越の特産品を道の駅のように販売するという内
容で、オンラインショップでは販売をしながら上越の特産品を集めたいという意見がありました。若者が中心と
なってSNSで発信し、上越の知名度を上げることで市内の活力が上がり、経済活動が活発になることを狙う取組
です。この事業がもし成功すれば上越市全体の利益（知名度が上がる、観光の面でも市のことをより発信しやす
くなる）となるかもしれませんが、私は市民としてひとりの利益にだけ関心しているのではないと思っています。地域金融
機関に期待して、やはり中小企業や個人にメリットがあることに意義があると思うので、まずは市内への
発信より市内へ目をつけるべきだと考えます。そこで、上越の特産品（ここではお菓子などの加工品、手芸品、
土産など）を販売するのではなく、（※市民の特産品を扱うことがより良いと考えました）、地域の場や都府県を販売す
ることで、市民（販売者の農家、購入者）にメリットがあり、また、「地域経済」で地域内で経済の循環を見込
める、さらにオンラインショップで全国に発信、知名度も上げることができ、様々なメリットがうまれるのでは
ないかと考えます。上越市の課題（また全国的課題）である少子高齢化に加え、後継者不足が問題となってい
ますが、地域金融機関が農業に親しみをもち、成功すれば後継者を増やすかもしれません。私は新潟県の特産である
一次産業をもっと発信に生かすべきだと考えます。

また地域金融機関が行う必要があるのか。このアイデアには「金融」「商」だけでなく「農」も盛り込まれます。市
民の活力を上げたいという点において、「金融」「販売人（農家）」「市民（客）」「外資の人（後援者や担
手）」など、たくさんの方の関わりがることにより成り立ちます。経済面で地域を支える。また「販売人→客」
「地域→外資の人」の関係を築く、発信する、販売人や農家を紹介するために、それらの架け橋になるのが地域
金融機関でなくてはならないと私は考えます。

②の「金融の可能性」「非金融の可能性」では主に少子高齢化に焦点を置きましたが、現代の日本では、自然
災害、伝統工芸などの後継者不足、山間部の過疎化など、その地域によって直面する問題は少しずつ違いますが、私は、
地域金融機関が地域活性化を目的に事業を起こすのであれば、まずはその地域の問題を把握し市民の意見をも
とに考えるべきだと考えます。地域の課題について考えるのは重要ですが行いだけでは、地域金融機関からこ
とができることだと思います。今後さらに人口が減少し、都市へ人が移動していくことで地方の産業が衰退することが
予想されます。地域金融機関も収益を上げ、ひとつひとつの地域について考える余裕がなくなるかもしれません。
地域社会をより良くするために自分たちが行動することが大切だと思います。地域社会の未来を決めるた
ちが金融について学んでいかなければいけないし、地域金融機関と関わっていくことがとても重要なカギになるの
ではないかと私は考えます。

地域社会における金融機関の可能性

新しい地域金融であるクラウドファンディングを活用することで今まで実行しにくかった
ことや地域の課題点を解決することが可能になると思います。私たちの班で考えた駅直結
のショッピングモールも、見積もりだけで150億円を超えるお金を動かさないと実行するこ
とができません。しかし、150億円というのは簡単に動かせるお金ではないのでお金を集める
のに時間がかかり、実行するまでの時間が長くなってしまいます。また、実行もできるかどう
か分かりません。そして利子をつけて借金を返さないといけません。クラウドファンディ
ングでも大きな額のお金を動かすため、計画をきちんと立てないといけなく進められない
というのは同じですが、お金を集めるためには共感を得ることが大事になります。『共感
を得る』というのは、商業施設を建てたときに来てくれることにも繋がると思いました。
また、クラウドファンディングで今の進捗状況や、活動を発信していくことでPRにもなる
のではないかと、思います。また、募金はいろいろな人が関われるので地域の人との関わり
にも、繋がると思います。他の県の人にも返礼品として地域の特有のものを送ることで地域
のPRや興味を持ってもらえるきっかけになると思います。なので、クラウドファンディ
ングは、普通に借りるだけではできないこともできるという可能性があると思いました。
私は今まで地域金融機関といってもどのような活動をどのような目的でしているのかよく分
かっていなかったけれど、活動を通して地域の人との繋がりがや、地域発展のためにさまざま
な活動を行なっているということが分かりました。将来、少子高齢化などで、人口が減って
しまうことなどが予測されており、それらにより地域発展がマイナスになってしまうかもし
れません。でも、今までなかった新しい金融によってプラスに変えることもできると思いま
した。どうお金を動かすのか、お金は有限だけれど、動かし方には無限の可能性があると
思いました。

写真3 生徒Cのレポート

写真4 生徒Dのレポート

さらに、「地域社会の未来を決める私たちが金融について学んでいかなければいけない。地域金融機関と関わ
っていくことがとても重要な鍵となるのではないかと」記述している生徒Cや「将来、少子高齢化などでさらに
人口が減ることが予想されており、地域の発展にとってはマイナスである。しかし、今までなかった新しい金融
によってプラスに変えることもできる。お金をどう動かすのか、お金を有限だが、動かし方は無限の可能性があ
る」と記述している生徒Dがいた。これらの意見から、生徒の多くは「相互扶助」に基づく金融の役割を理解し、
地域社会の発展に寄与する態度を養うことができたといえる。

以上の成果から、生徒が本単元を通じて、「よりよい社会」とは何かを具体的に考察し、「相互扶助」の概念を
自分たちの行動に結びつける力を身につけたことが読み取ることができる。このような地域金融機関とフィンテ
ックに着目した学習内容と指導計画は「よりよい社会」を考察し、「相互扶助」に基づく金融の役割を捉えるモデル
となりえるのではないかと。

（2）研究の課題

本研究の課題として、多様な学習内容を取り入れた結果、単元が14時間に及ぶ大規模な構成となった。生徒
の実態に合わせて、学習内容を往還したことにより、重複した内容があることが理由である。この長時間の学習
により、生徒間で金融や地域経済に対する理解度にばらつきが生じたほか、一部の生徒にとっては学びが抽象的
で実感を伴わないものとなった可能性がある。本単元の内容を金融経済教育とした場合、学習内容が多岐となる。

今後は、上記の内容をより焦点化し、「よりよい社会」の形成を考え、行動に結びつけることができる金融経済
教育の実践を進めることが課題である。

教科書では、フィンテックや金融をどのように扱っているのだろうか。以下のように整理することができる。

表 「フィンテック」に関わる教科書分析

会社	教科書の項目	課題	強調されている用語	フィンテックに関わる内容	フィンテックに関するコラム等	ページ
育 鵬 社 、 令 和 2 年 検 定	第3節 市場と経済 1 市場経済と価格	価格の働きとその決まるしくみを調べてみよう	市場経済、価格、貨幣、市場価格、需要量、供給量、均衡価格			pp. 142-143
	2 金融のはたらき	金融のはたらきとはどのようなものがあるでしょう。	金融、間接金融、直接金融、銀行、貸付、預金、為替、利子	【起業と金融】今後も、社会に必要な技術革新に関わる起業が市場の拡大や多様性を促して、新たな雇用を創出することが期待されます。例えば、AIとビッグデータやフィンテックなどを活用して、国民生活に革新的な利便性をもたらす金融ビジネスの起業が進みつつあります。こうした企業を探り出し、資金面や経営を支えることが、金融機関の使命として求められています。	・指紋を登録して支払いができる。・手数料が格安の海外送金。・レジ設置不要のモバイル決済サービス。銀行口座などと連携してスマホで会計簿を管理。	pp. 144-145
	3 日本銀行のはたらき	日本銀行の役割にはどのようなものがあるでしょう。	貨幣、中央銀行、日本銀行、発券銀行、銀行の銀行、政府の銀行、物価、金融政策、最後の貸し手			pp. 146-147
	4 グローバル化する経済	金融の国際化は、私たちの生活にどんな影響をあたえるでしょう。	為替、円高、円安、産業の空洞化			pp. 148-149
教 育 出 版 、 令 和 3 年 検 定	4節 金融のしくみと財政の役割 1 金融のしくみと中央銀行	銀行を中心とする金融機関には、どのようなはたらきがあるのでしょうか。	金融、銀行、金融機関、預金、利子、融資、決済、中央銀行、発券銀行、銀行の銀行、政府の銀行	【銀行の役割】また、私たちは買い物をする時、現金で支払う代わりに、口座振り込みや口座振替によって支払いを行うこともできます。これを銀行の決済機能といい、小切手やクレジットカードなどによる支払も同じしくみです。決済などのサービスを行う時の手数料も、銀行の利潤になります。最近では、インターネットやモバイル端末の普及によって、銀行の窓口に行われなくても口座振替などができるようになりました。また、ブロックチェーンのような新しい技術を利用して、手数料や手続きにかかる時間を大きく節約する独自の金融のしくみも開発されています。こうした新しい金融テクノロジー（フィンテック）は、金融の可能性を大きく広げる一方、情報保護などの面では、改善すべき課題があることも指摘されています。	モバイル端末 タブレット型端末やスマートフォンに代表される、携帯して持ち歩ける電子通信機器。ブロックチェーン 仮想通貨（暗号資産ともいわれる）の基礎になる、新しい情報処理の方法。特殊な暗号処理によって、金融機関を通さずに金融取引や決済を行える、仮想通貨を実現しました。仮想通貨を使うと送金費用などを大きく軽減できますが、安全面での課題も指摘されています。	pp. 152-153
	2 間接金融と直接金融	株式市場はなぜ存在し、どのように機能しているのでしょうか。	間接金融、直接金融、株式会社、株価			pp. 154-155
	3 財政が果たす三つの役割	政府には、どのような経済的な役割があるのでしょうか。	財政、社会資本、公共サービス、資源配分、所得の再分配、好況（不景気）、不況（不景気）、景気循環、財政政策、経済の安定化			pp. 156-157
	4 税金を納めること	税金にはどのような種類があり、どのようなはたらきがあるのでしょうか。	消費税、税金（租税）、財源、地方税、直接税、間接税、累進課税、逆進性			pp. 158-159
	5 税金の行方と国の借金	税金は、どのような課題を抱えているのでしょうか。	予算、歳入、歳出、地方交付税、国庫支出金、国債、地方債、公債			pp. 160-161

	6 経済政策が目ざすもの	経済の安定化を図るために、どのような政策が行われているのでしょうか。	国内総生産（GDP）、経済成長、失業、インフレーション（インフレ）、デフレーション（デフレ）、公開市場操作、金融政策、財政政策、経済政策			pp. 162-163
東京書籍、令和2年	3節 市場経済の仕組みと金融 1 市場経済と価格の決まり方	市場経済において、価格はどのように決定されるのでしょうか。	市場、市場経済、価格、需要量、供給量、均衡価格		pp. 136-137。電子マネーの利用、仕組み、スマートフォンを利用した支払い。	pp. 150-151
	2 価格の働き	市場経済において、価格はどのような働きをしているのでしょうか。	市場価格、寡占、独占、独占（寡占）価格、独占禁止法、公正取引委員会			pp. 152-153
	3 貨幣の役割と金融	貨幣や金融は、私たちの社会でどのような役割を果たしているのでしょうか。	貨幣・通貨、金融、直接金融、間接金融			pp. 154-155
	4 私たちの生活と金融機関	銀行は、私たちの生活の中でどのような役割を果たしているのでしょうか。	銀行、預金、利子、金利、為替、現金通貨、預金通貨、中央銀行、日本銀行、発券銀行、政府の銀行、銀行の銀行	【預金通貨】私たちが商品を購入するときの支払いは、紙幣や硬貨といった現金通貨である必要がなくなってきました。クレジットカードだけでなく、近年ではスマートフォンを利用した決済など、貨幣や支払いの在り方が多様化しています。	世界で進むキャッシュレス化 資料：各国のキャッシュレス決済比率。 資料：現金決済を断るスウェーデンのミュージアム。	pp. 156-157
	5 景気と金融政策	景気の変動に対して、どのような取り組みがなされているのでしょうか。	景気、好景気（好況）、不景気（不況）、景気変動、物価、インフレーション、デフレーション、経済成長、金融政策			pp. 156-158
	6 グローバル経済と金融	経済や金融のグローバル化は、私たちの生活にどのような影響をあたえているのでしょうか。	貿易、産業の空洞化、為替相場、円高、円安、多国籍企業			pp. 159-160
帝国書院、令和2年検定	第3節 企業と経済 1 私たちの生活と企業	企業は経済活動においてどのような役割を果たし、どのような目的で活動しているのだろうか。	企業、技術革新、起業、労働力、土地、労働力、資本、利潤		pp. 133-134。ライフプランからお金について考えよう。 3 金融商品とは 4 金融商品のリスク（利益の振れ幅）とリターン（利益）	pp. 128-129
	2 起業活動のしくみ	企業の活動はどのようなしくみで行われているのだろうか。	私企業、公企業、大企業、中小企業、ベンチャー企業、株式会社、株式、株主、株式総会、配当			pp. 130-131

	3 金融のしくみと働き	銀行などの金融機関は、私たちの生活においてどのような役割を果たしているのだろうか。	金融、銀行、金融機関、間接金融、直接金融、利子（利息）、フィンテック	【新しい金融】今日では、情報通信技術（ICT）の発展とともに、フィンテックとよばれる、ICTと金融の融合がめざましく進んでいます。例えば、スマートフォンを使った支払い方法が普及しつつあります。また、円やドルといった従来の通貨でなく、インターネット上でのみ流通する暗号資産（仮想通貨）が登場し、支払いに使えるお店も出てきています。さらに、資金を集める方法として、インターネット上で多数の人から資金を集めるクラウドファンディングも行われています。これらのサービスは、従来の金融機関ではなく、ICT企業によって開発・提供されるものも多くあります。	1 クラウドファンディングで資金を集めて製作された映画 資料活用 クラウドファンディングで資金を集める利点はどこにあるのだろうか。 情報化 家計簿アプリでお金を「見える化」	pp. 132-133
	4 企業競争の役割	企業競争は、私たちの生活にどんな影響をもたらしているのだろうか。	競争、カルテル、独占禁止法、公正取引委員会			pp. 135-136
	5 働くことの意義と労働者の権利	私たちがよりよい生活を実現するために、労働者の権利は法律によってどのように権利が保障されているのだろうか。	労働基準法、労働組合、労働組合法、労働関係調整法、男女雇用機会均等法、外国人労働者			pp. 137-138
	6 労働環境の変化と私たち	日本の労働環境は、どのように変化してきたのだろうか。	終身雇用、年功序列型、成果主義、非正規雇用、ワーク・ライフ・バランス、育児・介護休業法			pp. 139-140
日本文教出版、令和2年検定	7 企業の社会的責任	現代の社会において、企業にはどのような責任が求められているのだろうか。	社会的責任		pp. 147-148、第4節 これからの日本経済 2 日本銀行と金融政策、で日本銀行を取り扱っている。	pp. 141-142
	3 金融のしくみとお金の大切さ 1 金融のしくみ	金融とは何でしょうか。どのようなしくみとはたらしきをもつのでしょうか。	金融、利子、金融機関、直接金融、直接金融			pp. 154-155
	2 日本銀行と金融政策	経済の支払いの手段である通貨は誰がどのように管理しているのでしょうか。	中央銀行、日本銀行、発券銀行、銀行の銀行、政府の銀行、金融政策			pp. 156-157
	3 金融のグローバル化と為替相場	なぜ円とドルを交換する必要があるのでしょうか。その交換比率がなぜ変化するのでしょうか。	外国為替相場、円高、円安			pp. 158-159
自由社、令和	第1節 豊さを生む経済の仕組み 47 流通と金融の役割	商業はどんな役割を果たしているのか。そして金融の役割を考えよう。	商品、流通、商業、銀行、企業、貯蓄、金融		※pp. 122-139、41～48 まで第1節	pp. 136-137

和 2 年 検 定	第2節 政府 の経済活動 50 景気の変動 とその調整	景気変動はどのよ うにして起こるの か、そしてその調 整と日本銀行の役 割を考えてみよ う。	市場経済、好景気 (好況)、物価、 インフレーション (インフレ)、不 景気(不況)、デ フレーション(デ フレ)、景気変 動、日本銀行(日 銀)		※pp. 140-145、49 ～51 まで第2節	pp. 142- 143
-----------------------	--------------------------------------	---	---	--	------------------------------	-----------------

注釈・参考文献等

- ¹ J-FLEC は、「金融サービスの提供及び利用環境の整備等に関する法律」に基づき、2024 年 4 月に設立された認可法人であり、金融広報中央委員会(事務局：日本銀行)、全国銀行協会、日本証券業協会が発起人となっている。「<https://www.j-flec.go.jp> (閲覧日 2024 年 11 月 10 日)」
- ² 山根栄次『金融教育のマニフェスト』明治図書、2006 年、p. 18。
- ³ 金融広報中央委員会『金融教育プログラム』、2007 年。
- ⁴ 日本証券業協会『金融経済教育の課題と展開』清水書院、2021 年。
- ⁵ 大澤克美「金融教育」、日本社会科教育学会編『社会科教育事典』ぎょうせい、2012 年。
- ⁶ 東京学芸大学・みずほファイナンシャルグループ『実践から考える金融教育の現在と未来』東信堂、2018 年。
- ⁷ 田本正一「租税・金融教育」、棚橋健治・木村博一『社会科重要用語事典』明治図書、2022 年、p. 161。
- ⁸ 加納正二『地域密着型金融の限界とフィンテック』三恵社、2018 年、p. i。
- ⁹ 枝廣淳子『地元経済を創りなおすー分析・診断・対策』岩波新書、2018 年、p. 120。地域の実態を把握するために RESAS を活用している。RESAS (地域経済分析システム) -地域経済循環図ー「<https://resas.go.jp/regioncycle/#/map/15/15222/2/2018/->」(閲覧日 2024 年 8 月 18 日)。
- ¹⁰ 内田聡『明日をつくる地域金融 イノベーションを支えるエコシステム』昭和堂、2017 年、pp. 3-4。
- ¹¹ 小倉義明『地域金融の経済学』慶應大学出版会、2021 年、p. 34。
- ¹² 坂本広頭、フィンテックと地方創生～鍵は「地域共通ポイント事業」と「電子版地域通貨」によるデータ活用、「https://www.vmi.co.jp/jpn/bestvalue/pdf/bvextra/bvextra_04.pdf」(閲覧日 2023 年 8 月 15 日)。
- ¹³ 2022 年 2 月の観桜会に合わせてイベントを実施するためにクラウドファンディングを実施した「<https://camp-fire.jp/projects/644474/view>」。2023 年に修学旅行に合わせて身近な地域である上越市の雪を修学旅行に合わせて沖縄に送るためにクラウドファンディングを実施した「<https://camp-fire.jp/projects/710733/view>」。